

令和3年度 道徳授業公開 6年生

年 組	6年 1組
教 材 名 (出展)	困ったプレゼント (NHK for school ココロ部)
内容項目	信頼・友情
あらすじ 話し合ったこと	<p>長年の夢だったケーキ屋を開店した児島君。そこに、親友の鈴木君が開店祝いとして大きな天狗の模型をプレゼントしてくれた。親友の鈴木君の想いに応えて、店の雰囲気に合わない天狗の模型を飾るか？それとも、自分のお店の雰囲気を大切にして天狗の模型は飾らないか？</p> <p>子供たちは、飾るか、飾らないか自分の立場を決めて、選んだ理由を記述して、賛意や質問をしながら討論を行った。</p>
児童の反応 (感想)	<p>「飾る派」と「飾らない派」がほぼ、半々に別れて、とても活発な意見交流ができた。意見交流をする中で、子供たちは、飾る派も飾らない派も、わざわざ作ってくれた親友の鈴木君への想いが同じであることに気が付いた。友達に自分が望まない親切をされたときは、どのようにすればよいか？また、自分が友達の望まない親切をしないようにするためにはどうすればよいか？子供たちは、それぞれの視点で視野を広げることができた。</p>



年 組	6年2組
教 材 名 (出展)	銀のしょく台 (東京書籍)
内容項目	相互理解、寛容
あらすじ 話し合ったこと	ビクトル・ユゴー作「ああ無情」の感動的な場面を取り上げた文学作品。長い服役を終えて出所してきたジャン・バルジャンは、町のだれもが敬遠する存在だった。そのような中、ミリエル司教は、彼を温かく迎え入れる。しかし、司教の好意にもかかわらずジャンは、銀の食器を盗んで逃げてしまう。憲兵に捕まって連行されたジャンに対して、司教は怒るところか食器はあげたものだと言い、さらに銀の燭台まで持たせる。司教の行動から「相手を許すにはどのような思いが大切か」ということについて話し合った。
児童の反応 (感想)	今日の授業では、司教がジャンを許した行動に対して、最初に自分なら許すことができるかということについて考えました。「反省し罪を償うなら許せる」という意見もありましたが、「何も言わずに取るのはよくないから許せない。」「自分の物を盗まれたら許せる気がしない。」と自分なら許せないという意見が多数でした。そこから、どうして司教は許すことができたのかということについて考えました。「相手がどういう思いをしているのか理解できたから許せたのではないか。」「自分が犯した罪はちゃんと分かっているだろうと司教は思ったのではないか。」と司教がジャンの置かれた立場を理解し、相手を思いやる広い心をもっていたのではないかと考えを深める様子がみられました。

